

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1502
施設名	目黒天空ちとせ保育園
施設所在地	目黒区東山 2 - 7 - 1 4
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2 食育

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）年長クラスがこれまでも食育活動を月に1回行ってきたこと、夏の栽培活動や当番のお米研ぎの活動を通して食への関心が高かった。秋に実施する法人内の年長合同収穫遠足に向けて、より子どもたちの体験を豊かな物にできればという思いを込めて活動を計画するとともに、収穫後の体験からの子どもたちの関心の広がりから活動を計画し、実施した。

2. 活動スケジュール

「いも博士」を招いての食育活動 ➡ 芋を用いての遊び ➡ 収穫遠足 ➡ スイート・レト
クッキング ➡ 芋のつるを用いての クリスマスリース作り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）●外部の方を「イモ博士」として招いてのイモや野菜の探求活動●イモや野菜を観察するためのすり鉢・虫メガネ等●収穫遠足の実施●収穫後のクッキング体験●イモ畑から持ち帰ったツルを用いてのリース作り体験●製作したリースを他のクラスにプレゼントしに行く機会

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

収穫遠足の豊かな体験のため外部の方を「イモ博士」として招き、様々なイモを五感で比較する活動を実施した。様々な種類の芋や野菜に触れることで食材への関心を深めるとともに遠足への期待が高まる様子が感じられた。またイモ博士との活動の余韻として自由に楽しめるよう遊びで用いた材料を保育室に準備したことでそれぞれのタイミングとペースで行えた発見もみられた。期待をたかめてのぞんだ収穫遠足は友だち関係を深めるとともに食への関心を高める良い機会となった。収穫後のクッキング体験もあり楽しみをふくらませながら余韻を楽しんでいた。また、収穫後のイモのツルを保育室に干し、リースづくりの制作を保育者の提案で行う。製作したリースを他のクラスにクリスマスプレゼントとして渡しに行くことで年長児としての誇らしい体験も行えたように感じる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) ●イモ博士との活動では遠足への期待も元々あるうえに、様々な食材や道具を用いての活動だったため、より子ども一人ひとりが目を輝かせて食材に向き合う姿がみられた●収穫遠足ではイモの形やツル、葉などに関心を広げ、収穫した芋の重みも楽しみにして運ぶ姿が印象的だった●自分たちで収穫したものを園の他の職員やクラスにもおすそ分けしたいという声も挙がり、クリスマスギフトとして芋のツルで作成したリースを配り、嬉しそうにする様子も見られた

<活動中の様子>

いも博士を招いての活動



収穫園での収穫の喜び



収穫した芋でのクッキング



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

●収穫した後の重たい芋を自分で運ぶことをネガティブに捉えず、楽しいこととして一人ひとりが張り切って行う姿に触れ、イモ博士の活動を初めとする一連の活動が子どもにもたらした学びを感じた●特別な遠足という経験の前後に丁寧に活動を取り入れていくことによりより特別な体験が深みを増すことを感じた●収穫の対象はサツマイモであったがその他の種類の芋に触れる経験を持つことで、給食の際に芋の種類や食材に関心を広げ意欲的に食べる姿にもつながられた